

Ⅰ 履修の手引き

大学院における学修について

- 1.教育課程の概要
- 2.履修計画に関する諸条件
- 3.授業科目一覧
- 4.授業
- 5.履修
- 6.試験
- 7.成績
- 8.GPA 制度
- 9.教育職員免許状

1. 教育課程の概要

(1)教育課程（カリキュラム）

教育課程（カリキュラム）とは、本学の掲げる教育目標を達成するために必要な科目を開設し、体系的に編成されたものです。授業科目は、「共通科目」と「専門科目」に大別されます。「共通科目」は、修士論文を作成する上で基盤となる先行研究や最新の研究などについて学ぶ科目です。「専門科目」は、院生の学力水準を高める母体となる学びの部分であり、大きくしっかりした土台の上に成り立った実践力・研究力を養う重要な科目です。

(2)教育課程の特色

本学の教育課程の特色として以下の3点が挙げられます。

① Semester制

科目選択の機会を増やし、学習内容を充実させる観点から、Semester制(2学期制：前期／後期)を導入しています。各授業科目は原則1学期約14週間で構成され、成績評価を行います。

② スポーツフィールド・プラクティカムの重視

高次の問題解決能力を身に付けた人材を育成するために、本研究科の特長であるスポーツフィールド・プラクティカム(1年次 前期)の必修化を中心に据えた実践重視の内容としています。

実習先としては県スポーツ協会・県教育委員会・スポーツ関連企業スポーツクラブ（プロ又はアマチュア）などと連携し、早期から院生と指導教員・実習先の担当者との連携を密にすることにより、現場で実践を積みみます。研究してきた理論と合わせて、修士論文を作成（課題解決能力の育成）します。

③ 授業科目講義概要(SYLLABUS)の活用

授業科目講義概要(SYLLABUS)には、授業内容、授業計画、達成水準、評価方法等が記載されていますので、これを活用することによって効率的に学修することができます。

(3)分野の概要

研究科には、次の分野が設けられています。各分野では、生涯にわたりスポーツを楽しむ人々をサポートする、競技としてのスポーツに関わるための高度な理論を学び、実践力を身につけます。各自の職場・組織及び社会の状況下で、現実を改善するために何ができるのか、現場、状況の問題点を明らかにし、解決の方法を示せる能力を養成します。さらに、最新の理論と実践力を身につけるに止まらず、より広い枠、視点から分析的に捉える能力を養成します。

各分野

学校スポーツ分野	学校教育における保健体育教育のスペシャリストとしての人材を育成します。
コーチング分野	コーチングスタッフ・スポーツコーチを目指す人材を養成します。
トレーニング・健康分野	競技スポーツトレーニングを実践できる人材を養成します。
スポーツ情報戦略分野	次代のスポーツ文化を担うアナリストを目指す人材を養成します。
野外スポーツ分野	野外教育における指導者を目指す人材を養成します。
地域スポーツ分野	地域のスポーツ活動の指導者及び学校以外における生涯スポーツ活動のリーダーを目指す人材を養成します。
スポーツマネジメント分野	スポーツ産業界においてスポーツビジネスを目指す人材を養成します。

2. 履修計画に関する諸条件

(1) 修了判定

修了に関する履修上の要件を満たし、必要な単位数を修得し、修士論文の審査および口頭試問による最終試験に合格した者は、研究科委員会の議を経て修了が認定されます。修了判定の結果は3月中旬に通知します。履修上の要件を満たせず、修了に必要な単位数が取得できない場合は、留年となり、引き続き在学することになりますので、早めに指導教員等の指導を受けるようにしてください。

(2) 修了のための条件

本学を修了するためには、以下の3つの条件があります。

① 修業年限

大学院の修業年限は2年間です。在学年限は休学等の特別な事由を除いた4年間です。

② 修了に必要な単位数

修了するためには、カリキュラム表(次ページ)に基づいて、修了に必要な単位(合計30単位以上)を修得しなければなりません。修了に必要な単位は下表のとおりです。

科目区分	科目名	単位数	
必修科目	共通科目		
	スポーツ学研究法	2単位	
	特別研究Ⅰ～Ⅳ	計8単位	
	アカデミックイングリッシュ	2単位	
	スポーツフィールド・プラクティカム	2単位	
選択科目	専門科目	特論・演習	計16単位以上
合計			30単位以上

※指導教員の担当する特論・演習を必ず修得すること。指導教員の担当する特論・演習がない場合は、指導教員の指示する特論・演習を修得すること。

③ 特別研究Ⅰ～Ⅳ

1年次前期から2年次後期まで修士論文作成のための特別研究Ⅰ～Ⅳを受講し、修了年次には、修士論文を提出しなければなりません。修士論文のテーマおよび方法については、指導教員の指導を受けてください。

※別途お知らせします。

(3) 単位制

開講されている授業科目には、それぞれの単位数が定められており、単位を修得するためには、所定の時間を学修し、試験やその他の方法により合格と判断されなければなりません。

(4) 単位の計算方法

単位の計算方法は原則として次の基準に従います。

授業方法	授業時間	単位数
講義・演習	30時間 (1コマ100分X14週)	2単位
実習	30時間 (1コマ100分X14週)	1単位

3. 授業科目一覧

科目区分	科目名・単位数	配当年次	単位数		授業形態		
			必修	選択	講義	演習	実習
共通科目	スポーツ学研究法	1	2		○		
	特別研究Ⅰ	1	2			○	
	特別研究Ⅱ	1	2			○	
	特別研究Ⅲ	2	2			○	
	特別研究Ⅳ	2	2			○	
	アカデミックイングリッシュ	1	2			○	
	スポーツフィールド・プラクティカム	1	2				○
	小計（7科目）	—	14	0	—		
専門科目	スポーツ文化論特論	1		2	○		
	スポーツ文化論演習	1		2		○	
	発育発達特論	1		2	○		
	発育発達演習	1		2		○	
	地域スポーツ特論	1		2	○		
	地域スポーツ演習	1		2		○	
	野外スポーツ特論	1		2	○		
	野外スポーツ演習	1		2		○	
	学校スポーツ特論	1		2	○		
	学校スポーツ演習	1		2		○	
	健康教育特論	1		2	○		
	健康教育演習	1		2		○	
	臨床スポーツ医学特論	1		2	○		
	臨床スポーツ医学演習	1		2		○	
	スポーツマネジメント特論	1		2	○		
	スポーツマネジメント演習	1		2		○	
	トレーニング科学特論	1		2	○		
	トレーニング科学演習	1		2		○	
	コーチング特論	1		2	○		
	コーチング演習	1		2		○	
	スポーツ栄養特論	1		2	○		
	スポーツ栄養演習	1		2		○	
スポーツ心理特論	1		2	○			
スポーツ心理演習	1		2		○		
スポーツバイオメカニクス特論	1		2	○			
スポーツバイオメカニクス演習	1		2		○		
小計（8科目）	—	0	16	—			
合計（15科目）	—	—	14	30	—		

4. 授業

(1) 授業時間

	<1時限100分>
時限	授業時間
1	9:00～10:40
2	10:50～12:30
3	13:20～15:00
4	15:10～16:50
5	17:00～18:40

(2) 授業形態

授業は、講義、演習、実習またはこれらの組み合わせによる多様な形態で実施されます。

① 講義

講義は、教員が学問上の知識を伝達する形態の授業です。学生の自学自習が基本であり、積極的な授業参加が求められます。

② 演習

演習は、討論や共同研究活動を進める中で学生が自ら考え、発言するなど、より主体的、積極的な授業参加が求められます。

③ 実習（スポーツフィールド・プラクティカム）

本研究科に入学すると間もなく問題意識に従って、研究テーマとスポーツフィールド・プラクティカム先を決定し、十分な準備を行ったうえで1年次前期にスポーツフィールド・プラクティカムに臨みます。スポーツフィールド・プラクティカム先の担当者と指導教員との密な指導のもとに、現場での実践的な実習に取り組みます。

(3) 授業の欠席

大学院では公欠はありませんが、忌引や病気等のやむを得ない事由で授業を欠席する場合には、原則として事前に各自が授業担当教員に「欠席届」を提出してください。「欠席届」は教務課にあります。（欠席の具体的な取扱いについては授業担当教員に委ねられます。）

(4) 休講

授業が休講になる場合、掲示板にて連絡します。急に休講になった場合は掲示板およびポータルシステムを利用して情報を配信します。

(5) 補講

休講などにより、授業の未消化や授業時間数の不足を補うために、補講を行う場合があります。補講科目や日時に

(6) 集中講義

短期での教育効果を上げる科目については、集中講義として集中講義期間中に授業を行います。開講日時については掲示・ポータルで連絡します。

(7) 授業中の注意事項

許可なく教室内でのスマートフォン等の使用は禁止します。また、教室内での飲食は禁止します。

(8) 緊急時における授業等の取扱い

気象庁による近江西部の特別警報・暴風警報		
発令されている場合	午前7時00分時点で発令中	1・2時限目休講
	午前7時01分から午前9時59分までの間に解除	3時限目より平常授業
	午前10時00分時点で発令中	全時限休講
発令された場合	授業を中止し、下校する。	

JR湖西線（堅田ー比良間）が運行中止の場合	
午前7時00分時点で運行中止の場合	1・2時限目休講
午前7時01分から午前9時59分までの間に解除、運行した場合	3時限目より平常授業
午前10時00分時点も運行中止の場合	全時限休講

交通ストライキによる授業の取扱いについて		
JR西日本がストライキを行っている場合	午前7時00分時点で発令中	1・2時限目休講
	午前7時01分から午前9時59分までの間に解除	3時限目より平常授業
	午前10時00分時点で発令中	全時限休講

災害等の緊急事態が発生し、授業に支障があると判断した場合はその都度、掲示板及びポータルシステム等で大学から指示します。

※ポータルシステムは、インターネットを利用して重要な連絡等の大学から発信された情報を確認するシステムです。必ずスマートフォンに転送設定すること。

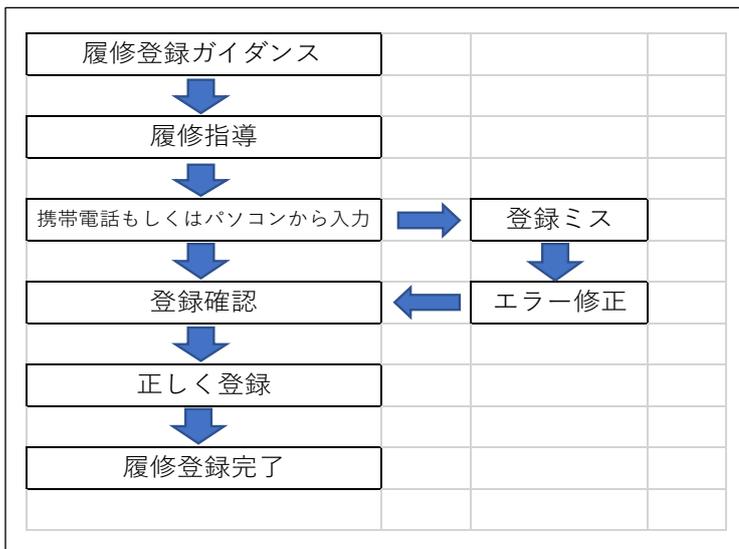
5. 履修

(1) 履修登録制度

履修登録は、学期始めに各自が学修計画に基づき、その学期に履修しようとする科目を登録する手続きで、スマートフォンもしくはパソコンで、指定された期限内に入力を行ってください。なお、いかなる理由があろうと指定された期限内に入力がされない場合は、当該年度の授業科目は履修できず、単位も認定されません。

(2) 履修登録手続き

下記の流れに従ってスマートフォンもしくはパソコンで登録します。登録期間終了後は、履修科目の追加や変更は認められませんので、注意してください。



【履修登録の際の注意】

- 教育職員免許状の必要な場合、該当科目を登録してください。
- 履修登録をした科目以外は、履修できません。
- 同一時限に重複して科目を登録できません。
- 単位を修得した科目を再度履修できません。
- 学費未納者は履修登録できません。
- 履修登録の入力や提出物等の期限を厳守してください。
- 各自で履修した科目や修得済み単位を把握してください。

(3) 履修辞退制度

授業開始から一定期間内において、辞退できます。履修辞退の受付期間は、ポータル等で連絡します。

【履修辞退についての注意】

- 履修辞退をする前に、単位数や免許等の必修科目でないかを確認してから手続きしてください。
- 必修科目の履修は辞退できません。
- 履修辞退届の変更や取り下げはできません。
- 辞退受付期間を過ぎた提出は一切受け付けません。
- 履修辞退の申請をせず、単位取得に必要な要件を満たさなかった場合、成績評価は不合格(F)となります。

6. 試験

(1) 定期試験

定期試験は、前期と後期の年2回実施されます。その時間割を試験開始の1週間前までに指示板に掲示します。時間割の変更等があった場合も同様に掲示します。掲示板を確認し、試験日・時間帯・教室等を間違えないようにしてください。

(2) 試験時間帯

定期試験は、原則として60分間で実施されます。

時限	試験時間
1	9:30～10:30
2	11:00～12:00
3	13:00～14:00
4	14:30～15:30
5	16:00～17:00

(3) 受験資格

- ① 受験できる科目は、履修登録をした科目であること。
- ② 学費納入者であること。

(4) 受験心得

- ・ 監督者の指示した位置に学生証を提示してください。学生証を忘れた場合、教務課で「仮受験証」の交付を受けてください。
- ・ 学生証、筆記用具の他は監督者が許可したもの以外すべてカバンの中に入れ、床に置いてください。衣類も同様です。
- ・ 試験開始後20分までの遅刻は認めますが、それ以後の入室は認められません。
- ・ 試験開始後30分経過しなければ、退室は認めません。一度退室した場合、再入室は認めません。
- ・ 試験中の私語、物品の貸し借りは厳禁です。
- ・ 試験中の携帯電話等の使用は認めません（電源は必ず切っておくこと）。使用が発覚した場合、不正行為とみなします。
- ・ その他、試験会場では監督者の指示に従ってください。

(5) 追試験

追試験とは、やむを得ない事由により定期試験が受験できなかった科目について定期試験に準じる試験を受験する機会を与える制度です。

① やむを得ない事由

欠席理由	必要書類
a. 公共交通機関の事故・故障による不通または遅延	当該交通機関発行の事故・遅延証明書
b. 病気又は負傷	医師発行の診断書
c. 親族(3親等以内) 死亡または葬儀	死亡診断書(写)または葬儀日程がわかる印刷物
d. 大学の代表として出場する競技会もしくは全国レベル以上の大会への出場	当該大会のプログラムまたは参加を証明できる書類
e. 就職活動における試験	試験日等を明記した書類(受験を証明できる書類)
f. 学会における発表等による参加	指導教員から参加を証明できる書類
g. その他正当な理由として研究科委員会が認めた場合	受験できなかった理由を証明する文書または証明可能な書類

② 手続き方法

a. 追試験受験願の提出

欠席した当該科目の試験日から1週間以内に下記の書類を教務課に提出してください。

- ・ 追試験受験願
 - ・ 欠席理由を証明できる書類(上表の必要書類)の原本
 - ・ 原本の写し(1科目につき1枚各自コピーすること)
- ※原本の写しには必ず学籍番号、氏名を記入すること。

b. 追試験受験許可について

各学期の成績発表もしくは成績通知時に、「追試験許可書」を渡します。追試験受験時には、学生証と「追試験許可証」を提示してください。

③ 時間割

前期・後期ともに成績発表時に掲示により発表します。

④ 評価

定期試験の成績評価に準じます。

(6) 再試験

再試験とは、定期試験の結果、その評価が不合格(F)となった科目について再度受験する機会を与える制度です。不合格になった全ての科目が再試験を許可されるわけではありません。

① 手続き方法

再試験の有資格者は、証明書自動発行機(中央棟 1階)で受験料(1科目につき3,000円)を納入し、教務課へ申し込んでください。筆記試験に代わるレポートの場合も必ず申し込みをしなければなりません。

② 受付期間、実施日

前期・後期ともにポータルにより発表します。受験に際しては、必ず学生証と「再試験受験許可書」を提示してください。

③ 時間割

前期・後期ともに成績発表時・もしくはポータルにより発表します。

④ 評価

再試験の評価は、合格の場合はC(60点)、不合格の場合はF(59点以下)として扱います。

7. 成績

(1)成績評価

授業科目の担当者が試験結果及びレポート等の評価を総合し、下表の基準に従って評価します。

評価	合格				不合格
	S	A	B	C	F
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下

(2)成績通知

学期ごとに「成績通知書」を郵送します。電話等での成績の問い合わせは一切受け付けません。成績通知書は再配布しませんので、大切に保管してください。

8. GPA 制度

学生の学業成績を評価し、履修指導に生かすために GPA (Grade Point Average)制度を設けています。GPA は下記の表に示されている換算方式で算出されます。

成績評価	評価点(Grade Point)
S	4
A	3
B	2
C	1
F	0

[GPA の算出式]※GPA の少数点第 3 位以下は切り捨てます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(科目の単位数} \times \text{その科目のポイント)の総和}}{\text{履修科目の単位数の総和}}$$

※履修辞退をした場合、その科目は成績評価されず GPA に算出されません。

9. 教育職員免許状

教育職員免許状を取得しようとする者は、修了に必要な単位のほかに、教育職員免許法施行規則に対応する科目の単位を修得する必要があります。

(1) 取得可能な専修免許状の種類

所定の単位を修得することによって取得可能な専修免許状の種類は右表の通りです。専修免許状の授与資格を得ようとする場合、当該免許状（中学校教諭及び高等学校教諭）の一種免許状を取得もしくは資格を有していることが必要です。

(2) 専修免許状の取得に必要な基礎資格及び最低修得単位数

免許状の種類	基礎資格	最低修得単位数	科目の区分
中学校教諭 専修免許状	修士の学位及び中学校 教諭1種免許状	24	教科及び教科の指導法 に関する科目
高等学校教諭 専修免許状	修士の学位及び高等学校教諭1種免許 状	24	教科及び教科の指導法 に関する科目

※取得しようとする専修免許状の種類（免許教科）に対応する本研究科の開設授業科目については、免許状によって取り扱いが異なる場合があります。開設授業科目一欄の備考及び注意書等に留意し、取得しようとする免許状に対応する授業科目を確認の上、専修免許状に必要な単位を修得してください。

(2) 免許状取得に必要な科目

種類	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する解説授業科目			備考
		授業科目名	単位数		
			必修	選択	
中専修 (保健体育)	教科及び教科の指導法に関する科目	スポーツ文化論特論		2	選択科目から24単位以上を修得すること
		スポーツ文化論演習		2	
高専修 (保健体育)		発育発達特論		2	
		発育発達演習		2	
		地域スポーツ特論		2	
		地域スポーツ演習		2	
		野外スポーツ特論		2	
		野外スポーツ演習		2	
		学校スポーツ特論		2	
		学校スポーツ演習		2	
		健康教育特論		2	
		健康教育演習		2	
		臨床スポーツ医学特論		2	
		臨床スポーツ医学演習		2	
		スポーツマネジメント特論		2	
		スポーツマネジメント演習		2	
		トレーニング科学特論		2	
		トレーニング科学演習		2	
		コーチング特論		2	
		コーチング演習		2	
		スポーツ栄養特論		2	
		スポーツ栄養演習		2	
		スポーツ心理特論		2	
		スポーツ心理演習		2	
		スポーツバイオメカクニス特論		2	
		スポーツバイオメカクニス演習		2	